

能登半島絶景海道の創造的復興に向けた基本方針の策定について

国土交通省 北陸地方整備局 能登復興事務所

1. はじめに

石川県では令和6年能登半島地震からの創造的復興を目指すため「石川県創造的復興プラン」を令和6年6月に策定（令和7年4月改定）し、単なる現状復旧にとどまらず、地域の魅力・価値を再構築し、能登がこれからも能登らしくあり続けるための取り組みを推進しています。

それを受けて国土交通省、石川県、能登7市町は能登半島絶景海道の創造的復興に向けた検討会を設置し、「観光」「道の駅」「サイクルツーリズム」「風景街道」等の様々な分野において、地域住民、事業者、行政等の多様な主体が連携し、地域全体で創造的復興に向けた取り組みを加速させていくことを目的に、能登の里山里海や観光地が点在する半島を周遊する国道249号など約300キロの「能登半島絶景海道」について、創造的復興に向けた基本方針を取りまとめました。



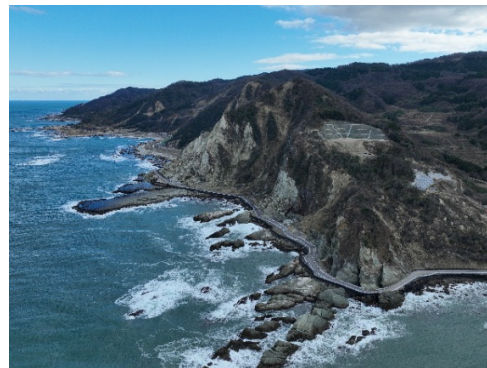
能登半島絶景海道想定エリア図

2. 能登半島の地形・地質と地域の人々の営み

日本海に突き出た能登半島は長い海岸線をもち、三方を囲む海岸線は、長い砂浜が続く千里浜、岩礁海岸が続く「外浦」、リアス式海岸を含む富山湾に面した「内浦」など沿岸の地形や環境は変化に富んでいます。海岸沿いには、半農半漁の集落が点在し、美しい海と集落、棚田や谷地田から形成される「能登の里山里海」は、世界農業遺産に認定され、その景観が高く評価されています。



国内唯一 波打ち際を自動車で行ける千里浜
千里浜なぎさドライブウェイ（羽咋市）



岩礁海岸が続く外浦（珠洲市）



リアス式海岸を含む富山湾に面した内浦
九十九湾（能登町）



海底の隆起によって上陸したように見えるゴジラ岩（珠洲市）
※地震前は海の中にありました



写真提供：珠洲市観光サイト



地震で崩れ、ハート形になった窓岩（輪島市）
※地震前は岩山の真ん中に穴が空いていました



写真提供：石川県観光連盟

また、能登半島は過去より地震活動が繰り返された結果、地形の変化を踏まえた人々の営みが数多く続いています。地すべり地形では狭小である農地で効率よく農業を行うため、傾斜地を利用した白米千枚田などの棚田が美しい農村の景色を作り出し、過去に隆起した海岸段丘では、揚げ浜式塩田が伝統的な能登の塩づくりとして受け継がれてきました。

能登の美しい景色は、地域の人々の営みによって形成されています。



田植えの様子 白米千枚田（輪島市）2024年5月 写真提供：輪島市



海水まきの様子 写真提供：「道の駅」すず塩田村（珠洲市）

3. 能登半島絶海道の創造的復興に向けた基本方針

基本方針では、国内外から人が集まる絶景海道を目指すための4つの柱を立てました。

1つ目の柱は観光を主とした『能登の魅力を「ぐるっと感動！」』です。

能登の絶景、豊かな自然、伝統ある祭礼や技術など魅力たっぷりの能登。能登ならではの地理的な特徴を生かし、世界中から能登をゆっくりと堪能してもらう滞在型観光の促進を目指します。



物流ドローンの試験飛行（珠洲市）2025年8月15日



隆起海岸を利用して整備された道路などをめぐった
今しか見られない能登ツアー（輪島市）2025年8月22日

将来像として、新たな絶景スポットには、地域の魅力に出会い、震災を振り返ることができるような目的地となる道の駅やパーキングを整備し、これらと能登の主要施設には、空飛ぶクルマの拠点として利用できるパーティポートの設置を目指します。

平時は空から絶景を楽しめる観光拠点として、国内外からのインバウンドも取り込み交流人口の拡大を図ります。

また、有事の際は、支援物資や住民・観光客の避難経路・物流拠点として活用し、災害に強い能登半島を目指します。



将来像のイメージ
能登の魅力を「ぐるっと感動！」

2つ目の柱は「道の駅」を主とした『人が集まる「道の駅」へ』です。

旅の目的地から地域づくりの拠点へと進化する「道の駅」において、観光拠点としての整備や特産品の販売に加え、地域の賑わいに貢献するサービス提供など、観光客と地域の交流の場をつくります。



多くのライダーが立ち寄る
「道の駅」千枚田ポケットパーク（輪島市）2025年5月



復興状況をPRする「道の駅」リレーイベント
「道の駅」めぐみ白山（白山市）2025年4月

将来像として、震災を含めた地域の歴史や文化に出会える魅力的な道の駅を整備します。また、「AI多言語観光案内」「AI地域語り部」「AI施設管理」などAI技術を活用し、能登を訪れたすべての方を包み込むようにお迎えする場所として整備を推進します。

自動運転のサービス拠点となる可能性を見据えた整備を推進するほか、車だけでなくバイク、自転車、空飛ぶクルマやドローンなどのあらゆる交通手段の結節点を目指し、地域住民・観光客双方が交流する便利で地域の賑わいを創出するエリアを目指します。



将来像のイメージ
人が集まる「道の駅」へ

3つ目の柱はサイクルツーリズムを主とした『じてんしゃ旅、ふたたび』です。

自転車が快適に走れる環境づくりに加え、震災で縮小したサイクルイベントへの支援を通じて、能登の魅力在国内・海外に発信し、サイクルツーリズムを盛り上げます。



ツール・ド・のと 400 特別企画 奥能登復興サイクル 100
能登半島絶景海道 国道 249 号（輪島市・珠洲市）2025 年 9 月 15 日



サイクルツーリズムの推進に向けた試験走行
能登半島絶景海道 国道 249 号（輪島市・珠洲市）2025 年 9 月

将来像として、能登半島絶景海道の沿線を全国でもここで見られない魅力的なサイクリングエリアとして整備を推進します。また、道路空間の再配分により、自動車・自転車双方が安全・快適に走行できる空間を整備します。あわせて、海外エージェン^{しょうへい}ツ、インフルエンサーの招聘や情報提供・発信を通じて、全世界のサイクルライダーへ、能登の魅力の海外浸透を図ります。



将来像のイメージ
じてんしゃ旅、ふたたび

4つ目に柱は風景街道を主とした『風景街道がつむぐ絆を未来へ』です。

能登の旅から人と風景をつなぐ風景街道。魅力ある風景や震災を活用した観光コンテンツの充実などを通じて地域で活動する様々な団体と交流・関係人口とをつなぐ道づくりを進めます。



バイクイベント参加者と地域住民との交流 2025年4月26日
写真提供：(一社)日本ライダーズフォーラム



風景街道 奥能登絶景海道カレンダーとグッズ

将来像として、震災を踏まえ、観光地域づくり団体（DMO等）、スタートアップ企業、ローカル・ゼブラ企業や能登地域で頑張る多様なステークホルダーを巻き込み、魅力的な風景街道を構成していきます。また、震災の記憶を伝承する「語り部観光ガイド」や能登半島絶景海道を活用した「能登駅伝の復活」など、日本風景街道からはじまる地域の「稼ぐ力」を引き出し、これらの取り組みを担う次世代の人材の育成を図り、「みち」を舞台とした持続可能な様々な交流を推進します。



将来像のイメージ
風景街道がつむぐ絆を未来へ

4. おわりに

観光は、「移動」「共感」「共有」という三つの要素でできています。国内外の能登を訪れる方々が、そこに息づく文化・風土に触れ、共感し、その体験を他者と共有することで、能登の魅力は全世界に広がっていきます。そして、観光インフラ整備は、地域住民の生活環境を考える拠点的な役割にもなります。

今後、「能登半島絶景海道」が、能登地方の創造的復興のシンボルとなり、震災前よりも魅力ある地域となるよう、能登半島地震からの創造的復興に向けた取り組みをさらに推進していきます。



能登半島絶景海道ロゴマーク

金沢美術工芸大学の学生がデザインした案の中から SNS 等を利用した一般の皆様の投票結果を基に「ぐるっと感動、まるごと能登！走るたび、能登の新たな魅力と出会える道」をメッセージに込めたロゴマークを採用しました。

能登半島のシルエットを能登の頭文字「の」と組み合わせたシルエットと絶景を見た時の驚きや感動の表情を組み合わせ制作しています。また能登半島のシルエットは、被災した能登を想う包み込む手のイメージで作成しています。

このロゴマークは、能登半島絶景海道全体の一体感を醸成することを目的に各種イベントチラシ・ポスターのほか、道路標識などにも明示し、能登半島絶景海道の普及・啓発活動に寄与すると認められる場合には、どなたでもご使用いただけます。